

新スタッフから

私のお仕事と標本室へのいざない

横井 力（自然環境部）

今年度4月から主に植物標本室（国際略号 NAC）の維持管理を担当しています、横井力です。ここでは、私の標本室での仕事内容と、その利用についてお話ししたいと思います。飯綱庁舎の植物標本室は県内では信州大学の約30万点につぐ約16万点4551種（高等植物）の植物標本が収蔵され、その規模は中部地方有数といえます。私はそれらの標本を良い状態に維持し、広く利用してもらう体制を整えるために、標本の作製、配架、データベース構築などの仕事をしています。地味な作業が多いですが、その積み重ねが数百年もの標本の保存・利用を可能とします。仕事と平行して、私はカヤツリグサ科スゲ属植物の生態学的研究をしています。スゲ属は同定が難しく、未だ生態学的研究が進んでいない、謎の多い植物群です。その生態学的な謎を解く基礎となるのが同定能力です。能力向上には図鑑だけでなく実物（標本）と見比べる作業が必要となります。

今では標本室の良き利用者となり、約1万点約200種もあるスゲ属標本とにらめっこをして日々同定能力を磨いています。もし図鑑で名前がわからない植物があれば、是非、標本室で標本と比べてみてください。図鑑には書かれていない、独自の発見があります。



標本室にて私とスゲ属植物クロボスゲのツーショット

自己紹介と長野県の地球温暖化「適応策」について

田中 博春（循環型社会部）

はじめまして。2010年7月に環境保全研究員として着任しました、田中博春と申します。私の長野県との縁は学生時代からあり、東京から八ヶ岳まで通って書いた気象観測の論文で、博士の学位を取得しました。また1997年以来、長野市で山風観測があるたびに、当研究所には毎年のように訪問させて頂いておりました。その研究所に長野県の職員として勤務させて頂けることに、深い縁を感じています。

現在は、長野県の信州クールアース事業に基づき、長野県で実施する地球温暖化適応策の策定に関する研究に従事しています。温室効果ガスの排出をできる限り抑える温暖化「緩和策」に加え、近年では社会・経済の仕組みや人間の行動を変えることで温暖化後の環境に適応する、温暖化「適応策」が重要視されるようになりました。参画している環境省のプロジェクトでも、長野県の温暖化適応策策定に大きな期待が寄せられています。県の施策の立案という自然科学的な研究の枠を超えた事業にチャレンジ

できることに、とてもやりがいを感じています。私はこれまで、5つの大学、3つの研究機関、2つの法人を渡り歩き、地球温暖化の研究からNPO法人の事務局長まで、幅広い内容の仕事に従事してきました。その経験をぜひ本事業に生かしたく思います。



シベリア・ヤクーツク近郊の温暖化調査地のようす。地球温暖化に伴い地中の季節凍土が溶ける量が増え、森林が沼地に変遷しつつあります。